



題名「大きく育つ八潮の木」

♥作品解説♥ 絵具や画用紙を大胆に使って街や自然をテーマに仕上げました。教室のみんなもそれぞれ違って、みんないいところがある、あふれる個性を大きな木で表現しました。

(スマートキッズプラス八潮第二)

## 人とかわり、いきいきと生きていくために

所長 中村 雅子

今年4月2日の「2023世界自閉症啓発デー」を記念して、「みて！きいて！自閉症・発達障害の素晴らしい世界」というテーマで、講演会と展覧会の二つを開催しました。自閉症や発達障害についての正しい理解を、多くの皆様とともにより深める機会にしたいと思い、約1年をかけて準備を進めました。実現までの1年間、

さまざまな方々のご理解ご協力を賜り感謝の念に堪えません。当研究所は、障害のある子どもたちが人とかわり、いきいきと生きていくことができるよう、年間を通じて啓発と研究に取り組んでまいります。

以下に展覧会と講演会の概要をお知らせします。(スマートキッズのホームページも併せてご覧ください)

### 池袋サンシャインシティ「ぼくたち・わたしたちの大好きな教室フラッグ展」

スマートキッズの各教室では、指導員の方々と子どもたちが心をつなげて、大好きな教室を表そうと、一所懸命に構想を練り、イメージを膨らませながら制作しました。指導員の皆さんは、一人ひとりの子どもの想いに寄り添い、フィンガーペインティングやデカルコマニー、スタンプングや吹き絵など、様々な技法を紹介し、表現の楽しさを広げていきました。こうして完成した子どもたちの作品には、光り輝く生命力が宿っていました。作品は、年間を通じて「きらっと」の題字部分にも掲載しますので、ぜひご覧ください。

写真は、多くの人が行き来する池袋サンシャインシティの作品展の様子です。



いつもなら、通勤、通学、買い物などで通り過ぎるこの場所に、長い時間立ち止まり、じっと見つめる人たちが大勢いました。あるお子さんは、お母さんの手を引いて、「これみて！すごいよ！」と目を輝かせていました。お母さんも「ほんとうだ！！」と楽しそうでした。細かな布を張り合わせた絵をじっと見つめている方もいらっしゃいました。子どもたちの繊細な感性と



がんばりが、社会の多くの人々の心に届き、感動を分かち合えた瞬間でした。

オンライン講演会「広げよう！ 障害の理解と支援の輪」（スマートキッズホームページにもビデオ掲載）  
教育と医療の両面から、それぞれの専門家にご講演戴きました。

まず、教育面から、当研究所主席研究員、聖徳大学教授聖徳大学教育学部 教育学科長 河村 久氏より、約半世紀に及ぶ自閉症の子どもたちとの出会いを振り返り、自閉症理解の歴史的転換を通して、一人ひとりのニーズに応じた教育がいかに大切かということをお話し頂きました。この中で、私たち大人が、特に心に留めておくべきこととして、①大人(社会)の都合で動かそうとしても、決して従ってはいくれない、むしろ逆効果。本人が納得すれば行動は変わる。納得するまでには時間とプロセスが必要である。②学びが成立する環境を提供すれば、しっかり吸収し成長し変容する。③特性を活かして社会で活躍できるようにするためには、周り(学校を含む社会)が変わらなければならない。以上、三点の提言がありました。

次に、医療面から、当研究所研究員、耳鼻咽喉科北川医院院長、豊島区学校保健会理事、猪狩和子先生から、発達障害のある子どもたちにとって暮らしやすいまちづくりをすすめるために、地域における縦と横の連携の必要性と実際に猪狩院長が取り組んでいる実践の数々をお話し頂きました。一人ひとりのお子さんの発育・発達を理解し、成長過程にかかわり、一生という長いスパンを見据えて、医療を進めていくことの大切さ、そして、医療と学校や放課後等デイサービス、児童発達支援等の関係機関が連携をしてよりよく支援していく必要性を強調されました。猪狩先生の「実践あるのみ」の言葉は力強いメッセージです。

講演では、研究員であり臨床心理士である福本有紗氏より、各教室のフラッグについて、子どもたちの想いや指導員の想い、その取り組みの詳細が紹介されました。福本研究員は、スマートキッズの放課後等デイサービスで実際に療育にかかわる専門家ですので、指導員の皆さんがどのように子どもたちとフラッグを作り上げたかを実感を込めて語ってくれました。

講演に参加された皆さんから貴重な感想をいただきました。ある方は、「当事者が困っていることを適切に支援していくためにも、私たちは、正しい知識をもち、理解を広げていく必要があると思いました。自分も一歩、踏み出して、できることをしようと思いました」と伝えてくださいました。

障害児をもつ保護者にとって、子どもたちの将来への不安や悩みは、日々の生活の中で、ずっとあることでしょう。例えば、自立のこと、就労のこと、将来的には医療や介護のことなど数多くあります。そのどれもが、社会とのつながりを必要としています。少しでもストレスを減らし、社会的な孤立感をもたなくてすむような、みんながサポートしていくような社会をつくっていかねばなりません。障害のある子どもたちが、より豊かな人生を送ることができるよう、これからも社会に拓かれた場をつくっていきたいと思います。

<プロフィール>

スマートキッズ発達支援研究所 所長 中村雅子

私は、全国情緒障害教育研究会会長を5年間、設置校長を15年間務め、大学等で後進の育成に当たるとともに、国立成育医療研究センターの臨床研究員として、プレコンセプションケアの研究にかかわっています。（※全国情緒障害教育研究会は、1968年、自閉症児親の会全国協議会の結成と同年に創立された）

これまで多くの保護者の皆様と出会い、率直なご意見を伺ってきました。その多くが、卒業後、就労し、社会の中で人とかわり、生き生きと生きていくために、十分な教育ができていだろうかという不安でした。当研究所は、教育、医療、心理の経験豊かな専門家集団として、このような問いと真摯に向き合い、より有効な支援プログラムを開発し、その効果的な活用法を開発していきたいと思っています。また、学校（園）と放課後等デイサービス・児童発達支援等の連携を図り、子どもたちの健康づくりやキャリア形成、遊びや余暇など、豊かな生活づくりにつな

る実践を推進してまいります。